



# 筑紫女学園大学リポジット

## An Investigation on the Education Status of the Inner Mongolia Autonomous Region

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 崔, 淑芬, CUI, Shufen メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/117">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/117</a>

# 内モンゴル自治区の教育現状の一考察

崔 淑 芬

## An Investigation on the Education Status of the Inner Mongolia Autonomous Region

Shufen CUI

### はじめに

多民族文化の融合、同化の悠久な歴史において、中国は教育も単一な漢民族教育ではなく、さまざまな民族言語、文字、文化を持っている多民族教育である。全国総人口に占める割合が9%に過ぎない55の少数民族には、約130種の言語があり、53の少数民族はみな自民族の言葉を持っている。また、21の民族が27種の民族文字を使用し、そのうちの一部民族は複数の文字を使っている。1949年の建国以来、民族問題はあらゆる意味で常に国家の課題とされ、中国の憲法は、「各民族は一律平等、自己の言語、文字を使用し発展させる自由を有する」と定めている。(注1) 積極的な措置をとり、各少数民族地域の文化や教育の発展に投入し、民族共同の繁栄を促してきた。その結果としては、17種の民族文字による84種の新聞、11種の民族文字による153種の定期刊行物が発行され、中央人民放送局では5種類の民族語、地方レベルでは合計15種類の民族語によるラジオ放送も行われている。中国中央教育管理部署は、「少数民族の言語、文字については、平等で、団結、互助、調和の取れた民族関係を土台に、法律で保護している」と強調した。また、北京言語大学で開かれた「2008年国際言語年ならびに第9回国際母国語デー」のイベントで、中国教育部民族教育局の張強局長は、「中国の『憲法』と関連法律では、各民族は自分の言語と文字を使う自由があると定めている。また、少数民族の教育活動では、中国は民族言語と共通語を併用するという二ヶ国語教育を実施し、少数民族が多く住む地域では、民族の言語を授業の主な言語にしている」と述べた。今、漢語は、中国全土で通用しているが、漢民族少数民族を主とする学校では、一般に「双語教学」つまり、漢語と民族の言葉両方で授業をしている。多くの民族自治地方の政府の公文書、会議、公共場所の標識などは民族語と漢語が同時に使用されている。

教育においては、小中学校約1万7,000校が少数民族語と漢語の二言語教育を行っており、その生徒人数は23民族の600万人に及んでいる。(注2) しかし、民族的マイノリティの権力保障の中で、民族語の教育や言語の使用のほか、民族文化、歴史の継承を目指す民族教育も重要な要素となる。

筆者は、中国の少数民族が置かれている状況とマイノリティの権力保障の実態を明らかにするため、2009年の夏休みを利用し、内モンゴル自治区のパオトウ(包頭)北端に位置している白雲鄂博(パイリンミャオ)草原の現地調査を行った。主に、白雲鄂博砒区の小学校の教育運営主旨と現状、

授業の特徴、また、現存問題などを調査してみた。授業参観、教育行政機関の方や学校の責任者、また、先生や生徒・親たちとも懇談した。

調査、研究の主たる目的は、中国における少数民族問題、および少数民族政策の特徴及び言語・文字の保全と言語教育状況を明らかにすることを通して、これらが中国国内のみならず、アジア地域をも含む諸外国に及ぼす影響を考察し、それらの将来像を展望することにある。

本論では、歴史的な視点から内モンゴル族の言語教育と民族文化教育を踏まえ、今日に至るまで、国家が少数民族に対する二言語や民族文化など教育の実施、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点で捉え、現場調査で獲得したデータ、現地でしか入手できない資料に基づいて、主に大草原における小学校の民族教育を中心とする、言語・文字をめぐる実状、教育方針などを理論的・実践的な研究を行うとともに、「調整、改革、整頓、向上」の方針に基づく少数民族の教育現状、教育及び教育施策の成果と課題を検証、発展途上国と少数民族が抱える教育問題・展望と、その要因を綿密な実地調査により、複合的に分析・考察しようと思う。

## 一、内モンゴルにおける民族教育の沿革経緯

中国の北西部に位置している内モンゴル自治区は、北はモンゴル・ロシア連邦と国境を接し、北東から南西に延びる細長い地形になっており、標高1000~2000mの高原が広がっている。高原の大部分は草原であるが、西にはパタンチリン・テングリ・ウランブ八砂漠がある。古くから遊牧民の地であり、中国中原の歴史とは異なった歩みをたどってきた。清末期に内モンゴルと外モンゴルが分離し、清朝中央の支配下に組み入れられた。

内モンゴルの教育沿革からみれば、その発展としては、清末・民国と中華人民共和国という三段階に分けることができる。

### 1、清末時期：

中国の「教育近代化」のスタートになっているのは、「欽定学堂章程」と「奏定学堂章程」の発布からである。

アヘン戦争における、イギリス軍艦の砲火に象徴されるウエスタン・インパクト 西洋の衝撃が、中国の「天朝の体制」をすどく衝き動かし、清王朝の政治・経済・社会のあらゆる分野にわたって激しい動乱と改革を引き起こすことによって、中国の「近代」は開幕した。清政府にとって、「近代化」の重要な一環として「教育の近代化」があった。即ち、中国の「教育近代化」は、時期と特徴から見れば、社会の変動とともに行われたのである。ここでは、開明的官僚知識人の「西洋」への積極的関心、女性教育論の喧伝などが、清朝政府の教育新制の実施を後押ししたのである。1901年6月、清朝は経済特科を開き、8月には八股文形式を廃止、9月に「各省に学堂を設立せよ」という詔令を下した。また1902年、張百熙を管学大臣に命じ、学堂章程を作らせ、1905年には科举制度を廃止、「人材は学校から選ぶ」という中国教育史上有名な教育新制が行われた。

この「教育近代化」時期において、モンゴル族では初の近代式学校が設けられた。1902年、当時、

蒙藏事務局の総裁を歴任し、国民党理事会の理事も務めたジョスト盟ハラチン右旗の、グンセンノロブが崇正学堂・モンゴル初の女子学校 毓正女学堂、および軍事学校 守正武学堂を続々と創った。

これらの学校の創設は、清末の教育改革に呼応したものであったと賞賛されている。(注3) モンゴル族の近代教育が、清政府との繋がりの中で始まったが、モンゴル人の手によるモンゴル族の近代教育の始まりだったとは言える。清政府の正式な少数民族の教育に関する官方文書の発表は1909年(光緒34年)であった。また、官方文書の発表は満族とモンゴル族、チベットに制限されている。更に、授業内容からみると、崇正学堂では、言語として、最初、モンゴル語と漢語、地理歴史は、モンゴル語と漢語対訳した、グンセンノロブが編纂した『ハラチン源流要略便蒙』を教科書として、モンゴルの地理や歴史を教えていた。(注4)

ここで最も注目されたのが毓正女学堂の創立である。毓正女学堂の設立は、1902年から1903年頃であった。当時、グンセンノロブが訪日した時、女子教育の重要性を知り、女子学堂を創るため、日本人女教習の河原操子を招聘、音楽・図画と日本語等を教えたのであった。また、北京から漢文の教員を招いた。授業の科目は、読書・算術・地理・歴史・音楽等である。授業は、モンゴル語・漢語および日本語、いわゆる、三言語で授業を行っている。(注5)

この女子の学校教育が清政府から認められたのは、1907年(光緒33)の「女子師範学堂章程」「女子小学堂章程」が頒布されてからである。両章程は、女子教育に関する最初の法令として、中国女子教育史上では画期的な現象でもあったとは言えるが、この時期における女子教育、特に少数民族の教育において、政府より民間的な学校の方が著しく発展していたことは注目に値する。また、少数民族の教育に関する政策も整っていなかった。モンゴル族学校の建設が本格的に進んだのは、国民政府時期になってからだと言えよう。

## 2、民国時期

1912年1月、中華民国建国に際し、中華民国臨時大總統に就任された孫文が「漢、満、蒙、回、蔵の諸民族の力を合わせ、民族の統一とする」という民族共和論を提唱し、新中国の建設を目指した。1913年2月に、教育部に「蒙蔵学校章程」を定め、蒙蔵学校を設けた。「モンゴル・チベット・青海地域の学識を開き、発展させ、文化を向上させる」ことを主旨とし、生徒の募集枠には、モンゴルが50%、チベット15%、青海と付近の回族10%、漢・満族が25%という民族・地域配分があった。教育内容としては、主に漢語漢文・モンゴル文・チベット文・地理歴史・数学や一般教科を教え始めた。また、理数系の同校として蒙蔵専門学校(1918年)と北平蒙蔵学校(1929年)が設けられている。

1930年に、教育部によるモンゴル、チベット教育とその他地域民族教育を管理する中央行政機関として「蒙蔵教育司」(1946年、辺疆教育司に改称)を設け、各種モンゴル・チベット書籍の翻訳や、モンゴル・チベット地域で各級学校や職業学校をつくる方針を定めた。(注6) こうして、国民政府は成立当初の比較的早い時期からモンゴル族教育事業に着手したのである。1937年国立北京蒙蔵学校が創設された。その教育方針は、孫文の民族平等の原則に従い、教育の力によってモンゴ

ル、チベット人民の言語と意志の統一を図り、教育の普及と発展、その知識の向上、生活の改善、民俗意識の養成と自治能力の訓練、生産技術の増進などの民族教育の向上を図ったのである。(注7)

### 3、今日における民族教育

1949年の中華人民共和国建設後、国は少数民族の教育に対する指導を計画的に進行させた。1952年、中央人民政府教育部に民族教育司を設置した。その「少数民族教育行政機関の設置に関する決定」によれば、少数民族の教育に対する指導を強化するため、中央人民政府及び各級の地方人民政府の教育行政部門に少数民族の教育を管轄する少数民族教育行政機関或いは専門人員を置くこととした。

1976年の文化大革命(1966年から)の終了後、「四つの近代化」への移行による民族工作が復活した。1980年代の民族政策は、基本的には比較的穏健だった改革・開放が進むにつれ民族教育や宗教活動の復活、民族区域自治法の制定が行われ、また、自由主義的な民族政策も推し進められ、辺境地区は新たな時代を迎えることとなった。

1978年12月に開催された「中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議」で「改革開放」という中国国内体制の改革および対外開放の政策が打ち出され、その後中国全土で実施された。この改革開放の政策によって、内モンゴル自治区を含む中国全土で経済は大きな発展を遂げてきた。民族教育は内モンゴル教育全体の最も大切な一環であり、モンゴル民族の言語と文化の維持やモンゴル民族の文化的自立、さらに、民族地域の経済成長や発展などにもかかわる大きな問題の一つとなった。

中国の他の地域と比べ、内モンゴル自治区の経済的成長・発展は立ち後れた状態を見せてきた。このように経済的発展の立ち後れと経済体制の転換のために民族地域の教育方針や政策なども多くの不安定な要素を含むようになってきた。

1988年に、国家教育委員会(もとの教育部。1998年に再び教育部となる。)によって「全国小・中学校モンゴル語教材検定委員会章程」・「小・中学優秀モンゴル語教材の選定及び奨励方法」等が頒布された。

モンゴル語は実際、三つの方言になっている。(注8) 1980年3月31日に、内モンゴル自治区人民政府は、モンゴル語事業協力グループの「モンゴル語の基礎方言、標準音の確定とモンゴル語の音標の試行に関する請示報告」に基づいて、中部方言のチャハル方言を標準語にすることを決めた。(注9)

更に、1991年、国家民族事務委員会「少数民族の言語文字工作を更に強化することに関する報告」第三条、「中華人民共和国民族区域自治法」の規定に従って、主として少数民族の学生を募集する学校は、条件が整えば少数民族の文字による教科書を使用し、少数民族の言語で授業を行い、適切な学年から漢語の課程を増設して二言語教育を実施し、全国に通用する普通語を普及させるべきであるとした。また、「中央人民政府政務院の少数民族教育行政機関の設置に関する決定」を引き続き、「少数民族の教育を更に強化することに関する報告」・「少数民族教育特別補助金の使用範囲に

表 1 中学各学年モンゴル語・漢語時数の割合表 (50年～66年)

授業時数 科目	中 学 校						高 等 学 校					
	第一学年		第二学年		第三学年		第一学年		第二学年		第三学年	
	前期18週	後期18週	前期18週	後期18週	前期18週	後期17週	前期18週	後期18週	前期18週	後期18週	前期18週	後期17週
毎 週 の 授 業 時 数												
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
モンゴル語	4	4	4	4	3	3	4	4	4	4	4	4
モンゴル語文法	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	1	1
漢語	4	4	4	4	4	4	5	5	6	6	6	6

1952年「モンゴル族小・中学及び四年制初級師範学校における各学年各教科の授業時数とモンゴル語・漢語の教授について」に拠って作成

関する報告」を公布した。前述した「少数民族の言語文字工作を更に強化することに関する報告」の他に、「少数民族地区への補助金の一部を少数民族教育経費として使用すること」、1992年、「全国少数民族教育の発展・改革指導綱要」配布に関する通知等が頒布された。2008年「国際言語年ならびに第9回国際母国語デー」というイベントで、中国教育部民族教育局の張強局長は、「中国の『憲法』と関連法律」で、各民族は自分の言語と文字を使う自由があると定めた。

この一連の特殊な少数民族教育政策の方針により、全国に民族小学校が3万余り、民族中学校が3,000校を超え、学校は少数民族語と漢語の二言語教育を実施、その対象は少数民族の小中学生約650万人に及んだ。

一方では、言語教育の実施について、中華人民共和国が成立した直後、北方少数民族の間では初等中等教育のみならず、高等教育の一部の専門科目も民族語で教えていた。漢語の授業を設けていた学校もあったが、国家教育部が1950年8月、中学暫定教科課程（草案）の中で少数民族の初級中学で「国語と民族語を同時に教える」よう定め、漢語の授業時数を初級中学1年生から週3時間と指示、これによって少数民族二言語教育が公式に始められ、「モンゴル族小・中学及び四年制初級師範学校における各学年各教科の授業時数とモンゴル語・漢語の教授について」・「少数民族教育特別補助金の使用範囲に関する報告」等の決定が公布されたのである。

この時期の二言語教育、モンゴル語・漢語の授業時数を分析してみると、表1のように、モンゴル語・漢語時数の割合は、他の授業はモンゴル語で行うことによって生徒のモンゴル語の水準を保つことができるため、モンゴル語の授業時数を年ごとに漸減するものとしている。一方、漢語の授業時数は小学年の高学年から漸増させ、生徒が一定の漢語水準に到達するためであることが分かる。

義務教育と二言語教育の現状を調べるため、白雲鄂博砒区小学校を訪ねた。

## 二、白雲鄂博（パイリンミャオ）草原小学校の教育現状

### 1、白雲鄂博教育の現状

白雲鄂博は内モンゴル自治区の鄂爾多斯（オールドス）高原に位置している。面積は約8万km<sup>2</sup>であり、華北地方の重要な構成単位になっている。鄂爾多斯中生新代の坳陷（ヨウエン。渓谷の意）高原内には広範囲にわたって中生代・新生代の地層が広がっている。西部卓子山（ツオツサン）地区には太古代・元古代の地層がある。地層には豊富な生物化石や、石炭、石膏などの鉱物資源がある。1927年に中国の地質専門家・丁道衡により、希元素鉱が発見された。この希元素鉱が豊富に産出、稀土資源量は全国の97%を占め、18種類の新鉱物として有名である。

そのため、白雲鄂博は、モンゴル語の「豊かな神山」という意味になっている。人口は2万4,300人余り、ウランチャブ盟のダルハンムミンガン連合旗の境域内にあるが、行政上はパオトウ市に所属する。畜牧業が主な産業である。

筆者は義務教育の実施と二言語教育の現状を調べるため、白雲鄂博砒区小学校を訪ねた。この地域は中国の多くの観光地と違って、観光客の足があまり運ばれない地域である。

王校長先生の許可を得、校内見学と授業参観をすることができた。キャンパスに入ると生徒用の「学習板」があった。モンゴル語と漢字で書かれた文章が目に入った。また、キャンパスの周りに、沢山の木があり、緑に囲まれた悠雅な環境になっている。「これらの木は、王校長先生が最も自慢とする自作のようなものです、それぞれ名前も付けられました」と、先生達が熱心に教えて下さった。王校長先生が教室周辺の木を指さしながら、「これらの木は、私が十数年前、校長就任の時植えたものです。中国の砂漠化の問題は年々進行し、その被害は国内だけに止まらず東アジアにも及んでいる。環境保全は今や中国の大きな課題であり、環境と社会の持続可能性に向けた教育の開発、実践の研究が必要です。環境保全を学校教育の一部として取り込んできました」と語った。

王校長先生によれば、この学校は1957年に設けられ、現在、教師は43名、うち、モンゴル教員は18名、生徒は523名で、モンゴル生徒は36%を占めているという。

国語の授業を参観した。生徒たちはほとんど制服を着、使っている教科書は人民教育出版社から発行された「語文」というものであり、全て漢字文章である。生徒も綺麗な漢語発音で読み、先生の質問にも答えていた。

また、「教育部の規定によると、漢語は各民族の間で通用する言語文になっているので少数民族の生徒にとっては第二言語の学習となっている。少数民族の小・中学校における漢語教育の目的は、少数民族の生徒が現代漢語の初歩的駆使能力を身に付け、卒業後の就職あるいは進学に必要なしっかりした基礎をつくることにある。また、言語文字の訓練を行うと同時に、生徒が自然に祖国を愛し、人民を愛し、社会主義を愛する教育を受けようとする。国語の教科書の内容を見ると、漢語のピンイン、漢字、語彙、文法、文章と練習が含まれていた。

表2の通り、一年生の場合、漢語（5）・モンゴル語（3）・英語（2）、六年生になると、漢語（4）・モンゴル語（2）・英語（4）となっている。明らかに、三言語教育の特徴をもっているが、その中に、モンゴル語の時数が少ないことがわかる。



写真1 白雲鄂博矿区第一小学校



写真2 モンゴル歓迎式



写真3 パオの中での歌歓迎式



写真4 モンゴル料理



写真5 小学校教学楼



写真6 教室の中



写真7 子供達と一緒に



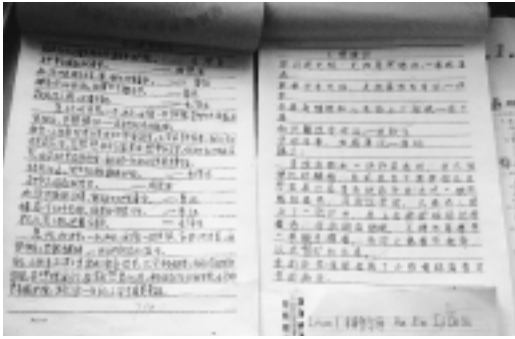


写真8 子供達の宿題



写真9 体育授業道具



写真10 校長先生自慢の木



写真11 草原の風景



写真13 チンギス・カン 銅像



写真12 回復されている草原



写真14 チンギス・カンの記念碑

表 2

## 白雲区モンゴル族学校時間割り表

2009年9月1日

各年	一 年 生					六 年 生				
曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	数学	英語	数学	英語	数学	数学	数学	英語	蒙語	数学
2	蒙語	漢語	漢語	蒙語	漢語	蒙語	漢語	漢語	数学	漢語
体 操 時 間										
3	漢語	漢語	体育	数学	音楽	科学	心理	数学	蒙語	読書
4	思品	数学	思品	手工	体育	音楽	漢語	英語	英語	英語
昼 休 み										
5	班会	音楽	美術	体育	美術	班会	読書	体育	科学	思品
6	体育	読書	蒙語	数学	読書	美術	体育	音楽	コンピューター	体育
7							数学	思品	数学	研究

中国では、少数民族に、自民族の言語文字の使用と、それを発展させる自由と権利が十分に尊重され、それが保障されている。1991年と1993年、自治区政府はそれぞれ「少数民族の言語文字工作を更に強化する」という規定を公布、「少数民族の文字使用と普及を着実に進める」とする民族言語文字使用の自由と権利を法律面から保障した。モンゴル族の文字は長い歴史を持ち、多種類でもある。モンゴル人の間では、自民族の文字として、伝統モンゴル文字、パスパ文字、トド文字キリル式モンゴル文字、ラテン式モンゴル文字などが使われてきた。伝統的なモンゴル文字はもともと十二、三世紀に回鶻文字を借り入れ、十七世紀頃に字体が変わり口語に合わせて改良され、現在のモンゴル文字になった。現在では、伝統モンゴル文字とトド文字が使われ、キリル式モンゴル文字普及も図られているが、1981年に、内モンゴルのモンゴル文字をモンゴル族の共通文字として、普及させることが確定している。(注10)

モンゴル語の教科書については、1988年、国家教育委員会によって「全国小・中学モンゴル語教材委員会章程」が頒布され、「小・中学校の場合は本民族語と漢語を並行して授業を行うべき」、「主として少数民族の学生を募集する学校は、条件が整えば少数民族の文字による教科書を使用し、少数民族の言語で授業を行うとともに、適切な学年から漢語の課程を増設して二言語教育を施し、全国に通用する普通語を普及させる」と定めた。(注11) この指示に基づいて、1980年、新疆ウイグル自治区教育庁は漢語の授業要綱をつくり、小・中学校の漢語教科書を編纂した。

一方で、モンゴル族の教育水準はたえず向上している。新中国成立後、少数民族の教育が非常に立ち遅れている状況を変えるため、政府は一連の措置をとって、少数民族の教育事業発展を教育活動の重点とし、発展計画、資金投入、教師養成などの面で少数民族の教育を重点的、優先的に按配、助成している。牧畜区の民族教育の立ち遅れている問題を解決するため、政府は多額の資金を投じた牧畜区での寄宿制学校の創設、少数民族の特別貧困学生のための助学金制度を定めた。

八十年代以後、中央政府や国家教育委員会・国家民族事務委員会などの国家機関は少数民族教育の発展・強化のため、一連の「方案」を出した。それは、少数民族行政機関の設立(1981年1月)・教育発展改革指導大綱(1992年10月)から少数民族の宗教と教育(1982年8月)・言語文字問題

(1991年4月)・少数民族成人教育まで、更に、具体的少数民族小・中教育の課程(1982年)・民族学院設置(1983年～1993年)から少数民族学生の受験・就職(1982～1992年)・教員の養成研修(1985年～1995年)・少数民族教育経費(1985年～1992年)まで指示し、民族地域に着実に実施するように要求した。これによって少数民族行政機関の設立(1981年1月)・教育発展改革指導大綱(1992年10月)から少数民族の宗教と教育(1982年8月)・言語文字問題(1991年4月)まで、また、具体的少数民族小・中教育の課程から(1982年)などの政策・指導・経費などによって少数民族の教育は著しく向上した。現在までほぼ二十年あまりの発展歳月を経て、モンゴル族の教育は大きな成果を果たしたのである。

## 2、白雲鄂博民族教育における現存問題

現場調査の際、先生達とよく面談をした。皆の話をもとめてみれば、幾つかの問題点が浮かび上がってきた。

### ①教育経費の不足

経費が少ないため、国や自治区政府から出されている資金の大部分は給料などに使われ、学校の建設などに使われたものは少ない。教室の中の机やイス、体育授業の機材などの設備も不十分、また、50年前に建設された教室や寄宿舎の改装、修理もできない状態が続いている。「今、123名の生徒が校外の民家を借りて寄宿している」と、王校長先生がため息をついた。

②教師の転職や退職の問題が普遍的に生じるようになってきている。辺境地のため、教師の中で転職するものが年々増え、無資格の教師の割合が大きくなり、教師のレベルが落ちている。

③辺境牧畜地域の民族小学校に対する奨学金が、民族区域自治法の規定どおりに支給されていない。

④モンゴル民族の経済発展に必要な専門家や人材が大量に不足している。従来の教育制度はすでに現在の経済発展に適応できなくなり、その体制への改革が迫られている。

⑤少数民族自身が行う民族教育は、中国政府に与えられた枠内で行われているという性格が強く、また、国家教育と民族教育の二重性という特徴を持っている。即ち、国民国家的枠組みにおける国民教育制度としての性格と民族文化の伝達、継承を目指した民族自らの教育制度としての特性を持ち合わせる事が求められている。

⑥地域においては、民族言語文字工作の指導方針に対する認識が曖昧であり、執行も徹底してなく、民族言語文字の工作を軽視する傾向がある。

以上の問題からみれば、現在内モンゴルの民族教育が直面している厳しい状況が窺われる。民族教育を発展させ、これらの問題の改善を図るためには、次の諸点に注意しなければならないと思う。

① 教育制度の改革を経済体制の改革の中に組み込み、その重要な一環として捕らえていくべきである。また、民族教育の面ではその地域と民族の文化的な特徴や経済的状况に従って行われることが大切ではないか。

② 国家や自治区政府も貧困地域、辺鄙な地域の教育現状を把握しながら、資金の援助、奨学金制度の設置と完備に努力しなければならない。また、自治区政府をはじめ、各地の関係機関は国家の

民族政策に従って、現地の状況に適用する民族教育を実施すべき。

③ 教師陣の質的向上を図ること。教師たちの質は、民族教育の正常な発展にかかわる重大な問題である。従って、教員の研修、資格認定制度を強化し、教員免許を有しない教師への雇用制度を見直すべきと考える。また、教員の社会的地位を高め、経済的待遇を改善し、優秀な教員の民族教育への貢献を評価すべき。

④ モンゴル民族の経済発展に必要な専門家や人材を育成するため、民族地域での単一化した教育体制の改革が必要と思う。民族地域において民族の基礎教育を重視すると同時に専門教育や成人教育にも力を入れるべき。

⑤ 各級の政府は、民族言語文字工作への指導を強化し、自治区間の言語文字の工作交流に関する活動を組織することや民族文字による教材と各種の読物の量を増やし、質を高める。そして、民族学校において、民族言語や文化などの課程を増設し、モンゴル語を勉強する生徒の数を増やすことに力をいれるべき。

今、内モンゴルの広大な草原では牧畜が盛んであるが、以前のような遊牧のスタイルはほとんどなくなっている。2002年から、放牧は乾燥化を招くとして、全面的に放牧が禁止された。現在では、集落に定住して牧畜を行うようになり、観光用を除くパオ（遊牧民の使う移動式テント）によって民族語、文字の使用率が一層低くなってしまっている。

現在の中国少数民族の二言語教育をみると、(1)モンゴル、朝鮮族型、(2)ウイグル、カザフ、チベット族型、(3)南方少数民族型 の3種類に分けられる。(1)は、主に学校教育を通して民族語を保持しつつ、漢語を学習することを目的とする。二言語教育の重点は、民族語と漢語の両方に置かれており、圧倒的多数の漢族人口に囲まれる中で、あるいは反右派闘争・大躍進、文化大革命の民族語排斥という政治運動の結果として、民族語を喪失した子ども達に民族語を取り戻させるための教育も行われている。(2)は二言語教育＝漢語教育という意識で行われている。二言語教育問題を語る時、民族語をいかに学習するかという点は出て来ていない。(3)は民族語・文字を媒体として、第二言語たる漢語を学習させることを目的とする。民族語は漢語学習の補助的手段であり、民族語の授業は多くの場合、小学校低学年に限られているという現状にある。

## 終りに

近年、漢語の学校に通うモンゴル人の子供達が急増している。その主な原因は、漢語の方がモンゴル語より有利であり、モンゴル語の勉強には将来性がないと言う考え方にある。こうした状況を速やかに改善しなければならない。

約400万人の人口をもつ中国のモンゴル民族は、巨大な中国のなかでは少数民族であることには変わらないが、モンゴル民族は人口からみても居住地域の広さからみても民族語で近代教育を發展させていく条件を十分に備えている。それを実現させるには、民族語によって教育を行うことが最も現実的で、最も効果的である。

改革解放政策採用後、その政策は中国の政治経済情勢おける大きな変動要因となっている。それ

ゆえに、中国政府は少数民族に対する統合・融和を図り、西部大開発政策を精力的に実施している。その成果もあってか、少数民族地域の政情は比較的安定しているようにも見える。

とはいえ、経済開発政策の進展にともなう、民族間の経済格差が拡大する可能性もあり、これが統合・宥和政策を破綻させる危険性もある。政府は、統合・融和政策と開発政策との微妙なバランスを慎重に図る必要に迫られている。そして、こうした要因が中国の政情を不安定化させれば、その影響は近隣諸国のみならず世界にも及ぶことになる。中国の少数民族問題の分析は、この意味において、重要な意義を有していると考える。

## 注

- 1、1982年『中華人民共和国憲法』「序言」
- 2、『民族教育研究』P、18 1994年第四期
- 3、「歴史上のモンゴル族教育」『民族教育研究』P、81 1993年第四期
- 4、郝維民『内蒙古近代簡史』P、44～45 内蒙古大学出版社 1990年
- 5、「清末蒙古族教育」『民族教育研究』1992年第二期
- 6、史筠『近代内モンゴル民族事務管理』P、146～147 吉林教育出版社 1991年
- 7、内蒙古朝鮮族研究会『内蒙古朝鮮族』P、196～197 内蒙古大学出版社 1995年
- 8、S・R・ラムゼイ『中国の諸言語 歴史と現況』P、257 大修館書店 1990年
- 9、中央民族学院少数民族言語研究所編『中国少数民族言語』P、576 四川人民出版社 1996年
- 10、白双山「蒙漢双語教育50年 記念内蒙古自治区成立50周年」『中国少数民族教育』1997年第三期
- 11、余子侠『民族危機下の教育応対』P、88～91 華中師範大学出版社 2001年

(さい しゅくふん：アジア文化学科 教授)